

令和6年度 学校だより

あくのうら 12月

ホムパ・ジ・アドレ www.nagasaki-city.ed.jp/akunoura-e/

令和6年 12月2日

長崎市立飽浦小学校

発行 校長 松尾伸章

12月に入りました。「師走になると陽の光が白っぽく見える。」と言った人がいました。陽の射す角度からくるのか、一年の終わりをを感じる心情からくるのか、定かではありませんが、確かに光が白く感じられます。12月になると一年の短さを感じますが、今年は、それと同時に秋の短さを強く感じています。

たいへん忙しかった2学期も、もうすぐ終わります。これまでの頑張りをもう一度振り返り、忙しさが力となったことを確かめ合って、一年の終わりを迎えさせたいと考えています。

【飽浦フェスタ2024】

11月24日（日）に、飽浦フェスタ2024を開催しました。今年度も、保護者・家族の皆様や来賓・地域の皆様にたくさんご来校いただき、子供たちの発表を見ていただくことができました。たくさんの方々に見ていただくことで、子供たちは緊張しながらももう一步頑張ることができ、自分の力を高めることができました。また、地域の皆様には、今年度も色紙絵にご協力をいただき、会場を盛り上げていただきました。力作ばかりで、改めて飽浦小学校を応援してくださっている熱い思いを感じました。皆様のご支援とご協力に、心より感謝申し上げます。

今年度の飽浦フェスタのテーマは、「一心同体」でした。オープニングセレモニーは、子供たちがやりたいことを考え、6年生を中心に準備・練習をし、子供たちの力でつくり上げた発表でした。意義のある発表だったと考えています。各学年の発表は、それぞれ学習したことなどを生かし、発表の内容を考え、発表の仕方等も工夫していました。それぞれの学年でよく頑張りました。そして、最後の全校合唱は、テーマ「一心同体」の締めくくりにふさわしい歌声だったと思います。きっと、ご来校をいただいたどのお客様の心にも響いた合唱だったと思います。本校は小規模校で児童数は少ないですが、その子供たちは全校合唱も上手です。これからも、子供たちの良さや考えを大切にしながら、さらに子供たちの力を高めていきたいと思っています。



群読「雨ニモマケズ」・ダンス「パプリカ」



千船太鼓



全校合唱「ビリーヴ」

【12月の行事予定】

- 2日(月) 安全の日
- 3日(火) スクールカウンセラー来校日
- 4日(水) なかよし集会
- 5日(木) チャレンジタイム(運動) 委員会活動
- 6日(金) 午前中4時間給食後下校
- 9日(月) 午前中4時間給食後下校 ピースデイ
- 10日(火) 午前中4時間給食後下校
- 11日(水) 午前中4時間給食後下校
- 12日(木) チャレンジタイム(算数検定)
- 13日(金) あくりゅうクラブ
- 15日(日) ※家庭の日
- 17日(火) なのたん発表会(5校時)
- 18日(水) 心の時間
- 19日(木) チャレンジタイム(運動)
- 20日(金) 授業参観(5校時 持久走大会)・懇談会 学校保健委員会講演会
- 24日(火) 終業式
- 25日(水) 冬休み(1月7日まで) ※1月8日(水) 第3学期始業式



【もうすぐクリスマス】



飽浦小学校の図書館にサンタさんがたくさんやってきました。図書ボランティアのみなさんが、サンタさんのぬいぐるみやクリスマスツリーなどをたくさん飾ってくださいました。

もうすぐクリスマスです。子供たちは、図書館のサンタさんから、本の中の素敵なお話をたくさんプレゼントしてもらおうことでしょう。

図書ボランティアのみなさんのおかげで、飽浦小学校図書館は、いつも季節感を感じることができる素敵な図書館です。子供たちが足を運びたくなる図書館です。図書ボランティアのみなさん、いつもありがとうございます！

飽浦小学校の子供たちは、いろいろな場面で、地域のたくさんのサンタさんに見守られながら、あたたかく育ててもらっています。



《校長室の窓から》

11月15日(金)に、地震・津波の避難訓練と児童引き渡し訓練を行いました。本校では、隔年でこの引き渡し訓練を実施しています。保護者の皆様にも協力をいただき、実際にお迎えにきてもらう訓練なので、時間を取らせてしまい申し訳なく思う気持ちもあり、実施について何も考えないわけではありません。

訓練は、そのほとんどが実際に必要になることはなく、油断してしまうと「どうせ何も起こらない。」という考えが生まれてきます。危機を「他人事」として捉えるようになるのです。私にもそうした気持ちはまったくないとは言いきれません。

東日本大震災を経験し、その後「小さな命の意味を考える会」NPO法人を立ち上げた佐藤敏郎氏のコラムを以前目にしたことがあります。佐藤氏は宮城県の中学校教師で、自身も震災で次女を亡くしています。

「大川小に限らず、あの日津波から逃げて助かった人は、『念のため』に行動した人です。見えないし遠いけれど、誰も逃げないけれど、『念のため』に逃げました。命を災害から守るのは『念のためのギア』です。教員のギアは一般の住民より一段も二段も早く高く入れられるように準備すべきです。教育活動で『命を守る』とは、『命を輝かせる』ことです。」

確かにそうです。私たち教員は、子供たちを守るために「念のためのギア」を早く高く準備しておかなければなりません。

訓練に対してご理解をいただき、ご協力いただいている保護者の皆様に感謝しています。